

社会科学習指導案

日時 平成29年10月27日（金）公開授業Ⅱ

児童 6年生

授業者

授業場

1 単元名 「新しい時代の幕あけ」

2 単元の目標

黒船の来航と開国による影響や明治政府が行った諸改革について、必要な情報を集める視点をもって各種資料を活用しながら調べ、当時の日本が欧米の文化を取り入れながら、近代的な国家を目指した背景について、比較したり関連付けたりしながら判断したことを適切に表現することができる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、幕末から明治の初めにかけての、黒船の来航、明治維新、文明開化等の歴史的事象について具体的に調べる活動を通して、我が国は、欧米の文化を取り入れながら近代的な国家を目指して、政治や社会の新たな仕組みづくりを進めていったことがわかるようにすることを主なねらいとしている。

黒船の来航と開国については、その経緯をつかむとともに、この時に条約を結ばざるを得なかった日本の立場がどのようなものであったのか、また、その後の国づくりにどのような影響を及ぼすものであったのかを捉えることが重要である。その上で、明治政府が行った諸改革について、主な事象や人物の相互関係や社会への影響に着目しながら調べ、それらを関連付けたり総合したりして捉えることで、当時の日本が、「富国強兵」をスローガンに掲げ、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めていった背景について理解していくようにする。

(2) 目指す児童像

本単元では、幕末から明治の初めにかけて、社会がどのように変化していったかについて、調べたことを根拠に説明できる児童の姿、「どうしてそのようなことが起こったか」や「どのような国づくりを目指してきたのか」等の時期・時間的な視点と、「どこで起こったのか」や「どのように広まっていったのか」等の空間的な視点、政策を進めた政府の意図やその影響を受けた国民の思い等の相互関係に着目し、日本が近代化を進めていった背景について多角的に捉え、自己の考えを構成する根拠を明確にしながら、発表したり議論したりすることができる児童の姿を目指していく。

(3) 指導観

上記を踏まえ、本単元では、各歴史的事象の意味や特色を追究する過程において、比較を意識した資料を提示し、新たな視点を引き出す教師の働きかけを行うことによって、事象間相互の因果関係やつながりを見いだすことができるようにする。また、自分の立場を明確にすることで、他者との違いに気付き、対話が促されるようにする。その中で、新たな考え方に触れ、多角的に考察することで、自己の考えを再構築したり、根拠をより明確にしたりしていくことができるよう学習の過程をデザインしていく。また、単元の終末には、「歴史新聞づくり」を位置付け、これまでの追究の過程を踏まえた自己の判断や、課題追究の視点や方法等の広がりや変化等について振り返り、表現する活動を通して、よりよい社会をの在り方考えたり、学習したことを社会生活に生かそうとしたりする態度を引き出ししていく。以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

答申では、社会科における「見方・考え方」について、次のように述べられている。

社会的事象を、①位置や空間的な広がり ②時期や時間の経過 ③事象や人々の相互関係等に着眼して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。

これを踏まえ、本単元における「見方・考え方」は、

①位置や空間的な広がり

- ・明治維新は誰によっておこったのか
- ・開国の影響は日本にどのように広がっていったのだろう

②時期や時間の経過

- ・江戸時代と比べて何がどのように変わったのか
- ・どんな理由で明治維新は進められたのだろう

③事象や人々の相互関係

- ・諸改革には、だれがどのように関係しているか
- ・諸改革は何のために行われたのだろう

等の視点から各事象について、調べ、考え、表現して、理解したり、学んだことを社会生活に生かそうとしたりすること等が挙げられる。

比較を意識した資料提示の工夫から児童の新たな視点を引き出す教師の働きかけ～I

本単元では、児童がより広い視野から黒船来航から開国までの経緯や明治維新、文明開化等の意味や特色を考察し、学習問題「なぜ、日本は変わらなければいけなかったのか」に対する自分の考えを構成する根拠を明確にしていこうとする姿を引き出していく。例えば本時においては、以下のような比較を意識した資料提示と教師の働きかけを行う。明治政府が進めた政策の意図や目的、結果や影響等を様々な人々の立場から考え、それらを関連付けたり総合したりして捉えることで、当時の日本が、なぜ「富国強兵」をスローガンに掲げ、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めていったのかについて、自分なりに考え、議論を通して学習問題の解決を目指す姿につなげていきたい。

提示する資料	教師の働きかけ
①殖産興業に関わる工場で働く人々の様子がわかる資料	これまで追究してきた諸改革に対する政府の意図を想起しながら、そこで働く人の思いを問うことで、政府と国民の両方の立場を関連させて考え、殖産興業の意味や特色を捉えることができるようにする。
②地租改正に対する一揆の様子とその後の経緯がわかる資料	地租改正によって一揆の数が増えたことに気付かせ、その要因について問うことで、当時の政府の思いと国民の生活の実態を比較し、それぞれの立場から思いを捉えることができるようにする。
③徴兵令の免除規定・指南書、実態がわかる資料	徴兵免除の指南書が作られた意味を問い、国民の思いを想像させることで、「強兵」に対する当時の政府と国民の思いに大きく差があったことや、その後の経緯を捉えることができるようにする。

4 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・表現・判断	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
ア我が国の歴史上の主な事象にかかわる人物の働きや代表的な文化遺産に関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究している。 イ自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深め、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情をもとうとする。	ア我が国の歴史上の主な事象にかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について問題意識をもち、学習の見通しをもって、追究・解決している。 イ調べたことをもとに、我が国の歴史上の主な事象にかかわる人物の働きや代表的な文化遺産が我が国の国家・社会の発展に果たした役割を考え、適切に判断している。	ア我が国の主な歴史的な事象について、年表や文章資料等の各種の基礎的資料を活用し、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に調べている。 イ調べた過程や結果を目的に応じた方法で分かりやすく表現している。	ア明治政府が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことがわかっている。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学 習 活 動	手 立 て
<p>江戸時代と明治初期の街並みを比較できる資料を提示し、人々の暮らしが大きく変化していた様子に気付かせる。また、その変化は「誰によって進められたのか」「どこに学んだのか」「そこに至るまでにどのような経緯があったのか」等、江戸時代の良さととの比較から見いだした疑問を学習問題につなげ、解決に向けて追究しようとする姿を引き出していく。 A</p>	<p>1 時間目</p> <p>江戸時代から明治初期の街並みの変化について関心を高め、社会の仕組みや人々の暮らしがどのように変化していたのかを考え、その背景について学習問題をつくり、調べる計画を立てる。 関ア 思ア</p>	
<p>なぜ日本は、変わらなければいけなかったのだろうか？</p> <p>1. 江戸幕府がたおれる！？ 黒船の来航は、日本にどのような影響をあたえたのだろうか。</p>	<p>2 時間目</p> <p>黒船来航とそれに対する政府の対応について調べ、外国との貿易が始まった経緯や外国との条約は、日本にとってどのようなものであったのかについて考える。 技ア</p>	<p>地図の提示から、開港した港の位置に着目し、諸外国がなぜその港の開港を要求したのかについて問うことをきっかけに、幕府が諸外国の武力をおそれ、不平等な条約を結ばざるを得なかった背景について捉えることができるようにする。 I</p>
<p>学習問題に対する現時点での自分の考えをまとめたり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。 ・外国の武力をおそれ、開国をせざるを得なかったのではないか。 ・外国と結んだ不平等な条約を、どのように解消していくのだろうか。 ・新しい政府はどのような国づくりを目指していったのだろうか。 B</p>		
<p>2. 新しい政府ができる！ 開国によって、幕府の政治はどのように変わっていったのだろうか。</p>	<p>3 時間目</p> <p>開国による人々の暮らしの変化や新しい政治を目指す動きについて調べ、国内で起こった様々な動きによって、武士の政治が終わっていき様子について捉える。 技イ</p>	<p>農民の一揆・打ちこわしの数の変化がわかるグラフを提示し、当時の生活の様子と、百姓を中心とする庶民の思いから、幕府と庶民の関係について考えることができるようにする。</p>
<p>学習問題に対する現時点での自分の考えをまとめたり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。 ・開国によって、幕府に対する批判が強まり、幕府が倒されていった。 ・新しい政府は、どのような国づくりを目指したのだろうか。 B</p>		
<p>3. 明治政府が目指した国とは？ 明治政府は、何のために諸改革を行ったのだろうか。</p>	<p>4 時間目</p> <p>明治政府が行った諸改革について調べ、政府がどのような国づくりを目指し、どのように社会の仕組みが整えられていったのかを考える。 技ア</p>	<p>坂本龍馬等の薩長同盟にかかわる人物のエピソードや、経緯がわかる資料を提示し、複数の立場の人々の思いを比較し、大政奉還までの経緯とそれに関わった様々な立場の人々の思いに気付くことができるようにする。</p>
<p>学習問題に対する現時点での自分の考えをまとめたり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。 ・国民にかかる負担は大きかったが、国を守るためには「富国強兵」を進める必要があった。 ・外国とのつながりは、その後の国民生活に、どのような影響を与えたのだろうか。 B</p>		
<p>4. どんな社会のしくみになった？ 文明開化によって変化した、政治や社会の仕組みは、人々の暮らしにどのような影響をもたらしたのだろうか。</p>	<p>5 時間目 (本時)</p> <p>明治政府が近代的な軍隊や制度をつくり、産業を盛んにして、国を豊かにすることで、欧米諸国に負けない国づくりを目指した背景や、当時の人々の生活への影響について考える。 思イ</p>	<p>明治政府が進めた政策の意図や目的、結果や影響について、様々な立場や視点から捉えることができる資料を提示し、その思いの共通点や相違点を見いだすことで、明治政府が最も重要に考えていた政策の意図について考え、適切に表現することができる姿を引き出していく。 ク</p>
<p>本時の追究における自分の考えの変容について振り返ったり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。 ・国民の声を大切にする議会の仕組みは、今の政治のしくみと似ている。 ・武士にとっては、とても生活しにくい世の中になっていったが、その後どうなったのだろうか。 B</p>		
<p>5. 日本はどうなっていくのだろうか 憲法を制定したことで、政治の仕組みは、どのように変わっていったのだろうか。</p>	<p>6 時間目</p> <p>自由民権運動の広がりについて調べ、明治政府が進めた政治が人々に与えた影響や人々が何を求めていたのかについて考える。 思イ 知ア</p>	<p>板垣退助等、自由民権運動にかかわった人物のエピソードや経緯がわかる資料を提示し、国民がどのような国づくりを求めていたのかについて考え、適切に表現することができる姿を引き出していく。 ク</p>
<p>本時の追究における自分の考えの変容について振り返ったり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。 B</p>	<p>7 時間目</p> <p>大日本帝国憲法の特徴を捉えるとともに、憲法を制定し、議会によって政治を進める仕組みができたことの意味を考える。 思イ</p>	
		<p>伊藤博文等、大日本帝国憲法の制定にかかわった人物のエピソードや経緯がわかる資料を提示し、政府の意図と国民の思いと比較することで、当時の時代背景を考え、適切に表現することができる姿を引き出していく。 ク</p>
	<p>8 時間目</p> <p>明治政府が目指した国づくりとその背景について、追究してきた情報をもとに自分なりの考えを歴史新聞にまとめる。 思イ 関イ</p>	

6 本時について (5/8 時間目)

(1) 本時の目標

明治政府が進めた富国強兵の国づくりについて、調べた情報や資料を基に根拠を明確にしなが意見と交流する活動を通して、当時の政府と国民の思いを比較し、欧米諸国に追いつけるような国づくりを目指した背景について考え、適切に表現することができる。

(2) 本時における研究の視点

本時においては、主に研究の手立て **I** を講じていくことになる。

前時までの追究の過程では、明治政府が富国強兵をスローガンに様々な政策を進めていった様子について資料を用いて読み解いていったことから、それぞれの政策の意図やそれによる人々への影響について確認する。その上で、政府の意図やそれに反する出来事等、国民への影響について考えることができる資料を提示し、異なる立場から政策の必要性について考えることができるようにする。さらに、それでもなお政策を押し進めたことの意味や意義を考えたり、その政策がもたらした影響を自分たちの生活とのつながりで捉えたりすることで、明治政府が目指した国の在り方について、自分の考えを再構成し、議論を通じて根拠を明確にしなが問題解決に向かう児童の姿を引き出していく。

(3) 本時の展開

学 習 活 動	主な働きかけ・手立て	【評価】個に応じた指導 (▲)
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の課題を確認して、学習の見通しを持つ。</p> <p>・政府は産業を盛んにするため、官営工場をつくり、海外から指導者や学者を招いた。</p> <p>・地租改正を行い国の収入を安定させた。</p> <p>・国民中心の軍隊を作るため、徴兵令を出した。</p> <p>○富国強兵をスローガンに政策を進めた。</p>	<p>・前時までの追究の過程から、明治政府が進めた政策の意図について調べた情報を基に自分の考えをもち、議論を通じて問題解決していく見通しをもつことができるようにする。</p>	
<p>明治政府は何のために様々な改革を行ったのだろうか</p>		
<p>2 調べた情報を基に「産業の発展」と「軍事力の向上」を視点を政策を進めた理由を考える。</p> <p>「産業の発展」</p> <p>・使節団は、海外の工場を視察して、日本の産業の遅れに気付いた。</p> <p>・政策にはお金がかかる。</p> <p>「軍事力の向上」</p> <p>・外国の軍隊との軍事力の差に気付いた。</p> <p>○強い軍隊を作るためには、産業の発展が必要だ。</p>	<p>○児童が前時までに調べたことを基に、根拠となった資料を確認しながら、わかったことと考えたことを黒板に整理していく。</p> <p>○整理したことをもとに、「どの立場から考えたのか」、「どんな思いがあったのだろうか」と問い、それぞれの政策に共通する思いや関連を整理していく。</p> <p>○必要に応じて、補足資料を提示しながら、児童の疑問を解決、整理していく。</p>	<p>【思い～ワークシートの記述、観察・発言】</p>
<p>3 示された資料を読み、既習事項と比較して気付いたことや疑問について話し合う。</p> <p>・国の産業はさらに苦しくなっていたのでは…。</p> <p>・国民の不満は増えていった。</p> <p>・強い軍隊はできない。</p> <p>・徴兵に参加した人の数も少ないし、熱心に訓練をしたとは考えにくい。</p> <p>・自分の生活を維持することも大変だったのに、さらに経済的な負担が増えて、困っていたはず。</p>	<p>○「富国強兵」の政策を進めた政府の立場が整理された段階で、「官営工場の労働者の様子」、「地租改正の国民への影響」、「徴兵令の実態」について資料を提示し、児童が「国民の思い」に気付き、政府の意図と比較していく姿を引き出す。</p> <p>○資料からわかったことを基に「軍事力は向上したと言えるか」や「国民は政府の目指す国づくりに納得していたか」等を問い、政策の意図と国民に思いの矛盾点に気付き、政策の必要性について考え直す姿を引き出す。</p> <p>○どの立場から考えることが大切かを問うことで、政策の妥当性について自分の考えをまとめることができるようにする。</p>	<p>【思い～ノートの記述、観察・発言】</p>
<p>4 政府が何のために富国強兵の国づくりを進めたのかについて自分の考えをまとめ、立場や根拠となる資料を明確にしなが、全体で話し合う。</p> <p>・国民の負担も多かったが、欧米諸国と対等になることで江戸時代に結んだ不平等条約を改正したかった。</p> <p>・鎖国によって大幅に遅れた日本が諸外国に追いつくためには、急速に産業を発展させる必要があった。</p>	<p>○児童が、政策を進めるにあたって重要だと考えた視点を整理し、比較しながら話し合うことができるようにする。</p> <p>□本時の追究を踏まえ、学習問題に対する現時点での自分の考えや新たな疑問、追究したい事柄をノートに整理し、次時の活動につながるようにする。</p>	<p style="text-align: right;">B</p>
<p>5 本時を振り返り、次時の見通しを持つ。</p>		